

地域の発展に寄与する工業団地に

今年度は6議案を審議



第60期通常総会

令和8年6月17日 第60期通常総会を開催

神奈川県内陸工業団地協同組合（組合企業数104社）の第60期通常総会が6月17日、団地会館大会議室で開かれた。総会には出席者72人で法定数を満たし、北相貨物自動車協同組合の大塚淳理事が議長に選出された。

今回の総会では、①令和7年度事業報告並びに決算報告承認の件②令和8年度事業計画並びに予算承認の件③経費の賦課及び徴収の方法決定の件④借入金の高限度額決定の件⑤役員報酬決定の件⑥役員変更の件の6議案が上程され全て承認された。

【各委員会の活動方針】
《総務委員会》財務収支状況を勘案した健全な組合運営の立案、実施に努めるとともにDX推進を図る《環境委員会》グリーンベルトの維持管理及び再整備の実施、道路名称版の修繕《安全衛生委員会》危険予知訓練、職長教育などの研修会をし、安全衛生自主パトリールにより情報等の共有を図る《防災・交通委員会》行政機関と連携し諸問題解決に向けた活動や共同防災訓練を実施《特別委員会》外国人労働者の日本語教育、団地の付加価値向上のため多角的な検討を進めるなどの活動方針を事業計画に含め承認された。

また同日、組合創立60周年に対し、商工中金から感謝状が贈呈された。

だんち



だより

第106号

2026年(令和8年)8月1日発行



軟式野球大会を開催しています。
歴史を感じる優勝旗です。

通常総会あいさつ

理事長 歳原博幸

皆様におかれましては、ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より組合活動にご理解ご協力いただき、厚くお礼申し上げます。

設立から60年が経過し、現在でも多くの企業の関係者から進出の希望をいただいている当組合には、大きく3つのメリットがあると考えております。まず1つ目は、圏央道を始めた交通の利便性が高いこと。2つ目は、当組合が長期にわたる「自然と調和した緑豊かな資源循環型モデル工業団地」を目指し付加価値の向上に努めてきたことにより、豊かな自然環境と調和した生産・流通の拠点機能を維持していること。そして3つ目は、地震に強い強固で

頑丈な地盤の上にあり、水害の心配が無い、一定の標高があることなど、災害に強い工業団地であるという事です。

一方、課題もありま

す。1つ目は、団地内道路での入庫待ちトラックの駐車問題と周辺道路の渋滞対策です。2つ目は、鉄道駅から距離があり、公共交通によるアクセスが悪く従業員の通勤に自家用車を利用せざるを得ないことです。これにより朝夕の通勤時間帯の渋滞に拍車をかけることに繋がっています。

当組合では大きなメリットを活かして町の発展に寄与するとともに、課題解決に向けては、行政や国会議員・県会議員の皆様にお力添えをいただき、進めていけるよう尽力してまいります。



事務局より

早いもので、今年もすでに折り返し地点を過ぎ、本格的な暑さが到来しています。近年は予期せぬ自然災害への備えの重要性を痛感させられる日々ですが、先般発生した熊本地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興と、皆様の平穏な日常が戻ることを切に願っております。

さて、本格的な夏を迎えて、熱中症への警戒が欠かせない季節です。日々の業務中はもちろんのこと、通勤やプライベートでも水分・塩分のこまめな補給を心がけ、体調管理には十分にご留意ください。

事務局一同、組合委員企業の皆様のご繁栄のために努めてまいります。

ポイ捨て撲滅へ ごみ拾いイベント



神奈川県内陸工業団地内で2月21日、光明学園相模原高校（相模原市）の生徒会が企画運営したごみ拾いイベントが行われました。今回が3度目で、昨年に続き日本たばこ産業（株）に協力をいただきました。今回は「E-PickUP！×ひろえば街が好きになる運動」と銘打ち、学校や企業ごとに3人1組でチームを作り、トンブとごみ袋を手に工業団地内を1時間かけて清掃。集めたごみの量や種類によってポイントが付き、最も多いポイントを獲得したチームに優勝トロフィーが贈られました。

当日は同高校や湘北短期大学（厚木市温水）、工業団地内の企業から24チーム72人が参加。歩道や植込みの中なども含めてごみ拾いに汗を流し、ペットボトルやビン・缶、たばこの吸い殻など合計74kgが集められました。参加した学生は「途中からごみが宝に見えてきた」と笑顔で話していました。

集計の結果、光明学園相模原高校の「みさちゃん」チームが18kgのごみを集め、優勝しました。